



石川 宣介

## 金屋子神 (かなやごかみ)

2011年11月23日(水)秋分の日でした。早朝から車を走らせ千種町を目指しました。中国縦貫自動車道の山崎インターチェンジで降り、国道29号線を北上、伊和神社の前にある道の駅で休憩。あと20kmは無いと思うので、山道でも30分程度です。波賀町で左折し急勾配の国道429号線を西に向かいます。目的地は、ここから5km位だろうか初めての道です。新しいきれいな長いトンネル、こんな字は見たことがない「鳥ヶ嶋(たわ)」です。

トンネルを抜けると下り坂になりました。間もなく右手に鉄錆び色をした自然石の碑が見え、側に人が立っておられます、ここが集合場所でした。今回、千種町のガイドをして頂いたのは千種町岩野辺(いわのべ)にお住まいの上山さまで、同行されるのは大阪にお住まいで、江戸時代からの有力鉄山師「千種屋」の末裔を自称される平瀬さまです。今回の目的は千種の「たたら製鉄」遺跡めぐりと歴史探訪です。千種には金屋子神が降臨されたとの伝承が残っています。



金屋子神 降臨碑



金屋子神



天見屋鉄山 跡

金屋子神が播磨国の岩鍋に降臨し、そこから白鷺に乗って西方を目指し、出雲国野義(のぎ)郡の黒田の非田(比田)に着き、桂の樹に羽を休ませていたところ、安部正重という者がいて、多くの犬を引きつれ、夜ごとに狩りをしにきていたが、たまたま桂の樹に光があるので犬が吠えた。正重が誰かと問うと、自分は金屋子神で、ここに住んでたたらを立て鉄を吹く術をはじめたいと言った。安部正重は慎んでこれを承った。そこで長田兵部朝日長者という者がいそいで神社を建て安部正重を神主となしたというものである。非田は島根県能義郡広瀬町西比田のことである。

(以下略)

金屋子神 降臨の地 岩鍋、伝承の話を聞き、古くから「たたら」製鉄が行われて来たことの説明を受けました。次に小さな川の側を登り荒尾鉄山跡を見学。途中、大木の下にある小さな石づくりの金屋子神の祠に出会いました。千種町河呂(こうろ)にある平瀬神社には菊のご紋が使われ往時の隆盛を感じました。鉄山を経営していた「千種屋」は大坂へ出て両替商を営みました。最後に、千種町西河内に明治時代まで操業した「天見屋(てんごや)鉄山遺跡」と併設されている「たたら里学習館」を見学しました。一日中ご案内頂いた上山さま、本当にありがとうございました。

参考図書

鉄山必用記事(鉄山秘書) 下原重仲 天明4(1784)年

日本の地名 谷川健一 1997年 7月 1日第6刷 岩波書店

### 黄鉄鉱の結晶



## 「鉄のふしぎ博物館」

来て!見て!ふれて! ふしぎ体感

ホームページと電子メールをご利用ください。

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)